

「JENESYS2025」日本大学生訪中団第1陣の記録 (対象国：中国)

1. プログラム概要

【目的・概要】本事業は、中国日本友好協会の招聘に応じて大学生・大学院生を中国に派遣し、大学訪問やテーマに関する企業・施設等の視察・交流等を通じて同世代交流を行うことで、両国の若者の間に友情を醸成し、相互理解の更なる深化を目指すものであり、また、5月29日（木）に北京で開催する日中青少年交流イベントに参加することで、日中両国の友好関係の更なる促進を目的として実施しました。

【参加者】日本の大学生及び大学院生 91 名、団長、(公財)日中友好会館事務局等 5 名 合計 97 名

【訪問地】中国 上海市、江西省、北京市

【日程】

■オンライン事前オリエンテーション（2回）

2025 年 4 月 3 日（木） 主催者挨拶、団長挨拶、事業趣旨・概要と今後のスケジュールの説明
質疑応答、グループワーク

2025 年 5 月 14 日（水） 主催者挨拶、外務省講演（最近の日中関係）、日程・準備事項・注意事項・出発・帰国時の手続き等説明、質疑応答、グループワーク

■派遣プログラム

2025 年 5 月 24 日（土）～5 月 30 日（金）6 泊 7 日

5 月 24 日（土） 上海浦東空港より中国入国

5 月 25 日（日） 【視察】上海博物館

【昼食会】

南昌市へ移動

5 月 26 日（月） 【視察】滕王閣

【学校訪問・交流】南昌大学

①歓迎会

②昼食交流

③文化体験（匂い袋作成）

【視察・体験】南昌 VR 産業基地

【歓迎会】

5 月 27 日（火） 景德鎮市へ移動

【視察・体験】景德鎮国際陶磁博覧交易センター、陶磁器絵付け

【視察】農村振興視察（寒溪村）、

【視察】陶溪川文化エリア、景德鎮陶磁器工業遺産博物館

- 5月28日（水） 【視察】陶陽里歴史文化街
北京市へ移動
【視察】永定門
- 5月29日（木） 【学校訪問・交流】北京師範大学
①歓迎会
②キャンパスツアー
③文化体験（漆扇、書道）
【中日青年友好交流大会】
【歓送会】
- 5月30日（金） 【視察】故宮博物院
北京首都国際空港より中国出国

2. 記録写真



2025年5月25日【昼食会】
在上海日本国総領事館の竹中恵一副総領事による挨拶



2025年5月26日【学校訪問・交流】
南昌大学



2025年5月26日【視察】
南昌VR産業基地



2025年5月27日【体験】
景徳鎮国際陶磁博覧交易センター 陶磁器絵付け

	
2025 年 5 月 27 日【視察】 農村振興視察（寒溪村）	2025 年 5 月 29 日【学校訪問・交流】 北京師範大学
	
2025 年 5 月 29 日【中日青年友好交流大会】 中国人民大学 明德楼	2025 年 5 月 30 日【視察】 故宮博物院

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

南昌大学での交流では、日本語を学んでいる大学 1 年生の方から日本語の教科書を見せてもらいました。最初のページから、日本語特有のあいまいな表現を含む会話文が掲載されており、中国における学習姿勢の高さに驚かされました。中国は人口が多く、大学に入る競争は日本とは比べものにならないほど厳しいのではないかと感じました。また、日本のアニメが好きな学生が多いという印象も受けました。

1 日目の夜、散歩をしていたところ、思ったより遠くまで行ってしまい、帰りはタクシーを利用したいと考えて、近くのコンビニ（便利店）にいたおじさんに相談しました。すると、快くタクシーを手配してくださり、なんとタクシー代まで支払ってくださいました。インターネットなどで見かける「人のつながりや温かさが無い国」という印象とはまったく異なり、実際には心の通った優しい人たちがいると実感しました。もちろん、自分が良い面ばかりを見ている可能性もありますが、それでもなお、現地の「本当の姿」をもっと多くの人に伝えるべきだと強く感じました。

北京師範大学では、学生の方にキャンパスを案内してもらいました。ラフで日常的な会話が多く、生活も自分とそれほど変わらない、普通の大学生だと感じました。「国」という壁は意外と低いのかもしれないと、思われました。

◆ 大学生

もともと中国に関心はあったものの、実際に足を運んで見た「生の中国」は、非常に興味深いものであった。アジア、さらには世界の超大国とも言える中国。そしてその原動力である 14 億人の人口の活気を目の当たりにすると、彼らがどのように思考し、どのように生きているのかを知りたくなった。そこで今回の訪中を機に、中国の政治および人民の根底にある思想への理解をさらに深めたいと考えようになった。

中国の至る場所で、「社会主義核心価値観」と大きく書かれた看板「政治宣伝・プロパガンダ」を目にした。その下には、「富強」「民主」「文明」「和諧」「自由」「平等」「公正」「法治」「愛国」「敬業」「誠信」「友善」という 12 の語句が並んでいた。私はこの中でも特に「公正」と「法治」に関心を持った。以前、習近平国家主席の愛読書の一つが『韓非子』であると聞き、岩波文庫の『韓非子（第 1 冊）』を読んだことがある。もちろん、韓非が生きた時代と現代中国は大きく異なる。だが、それでも現代中国の掲げる「公正」「法治」には、韓非子の思想と通じるものがあるのではないかと感じた。我々日本人は、戦後、西洋的な民主主義思想を取り入れ、「民主」＝「法の支配」と考えるようになった。その結果、社会は安定的に機能し、アジアで最初の民主主義経済大国となり、西側諸国の一員としての地位を築いてきた。比較として、西側の「民主」と中国の「民主」の関係を、「法の支配」と「法治主義」の対比として捉えてみると興味深い。どちらに優越があるのかを議論することは、それぞれの社会に暮らす人々の思想に深く関わるため、一概に判断することはできない。ただ、双方の価値観は相互に尊重されるべきだと私は考える。

今回が初めての訪中であつたが、私が想像していた中国とは全く異なる姿がそこにはあつた。一つだけ、想像と変わらなかったのは中国の人々に対する印象である。これまで日本で関わった中国の人々は皆親切であり、その印象は今回の訪中で確信に変わった。一方で、大きく異なっていたのは都市と経済の発展ぶりである。私の乏しい予測とは異なり、どの都市も非常によく整備されていて、洗練された都市計画を垣間見ることができた。また、農村地域であっても道路や公共施設は美しく整備され、地域内で経済がしっかりと循環している様子がうかがえた。今回の訪中を通じて、私の中国に対する見方は大きく変わった。人生 100 年時代と呼ばれる今、中国と関わっていくためには、その根底にある思想を理解し、尊重することが何より重要であると感じた。

最後に、このような非常に貴重な機会を与えてくださった日中友好会館ならびに中国日本友好協会の皆様に、心より感謝申し上げます。そして、中国を共に訪れた、多種多様なバックグラウンドを持つ訪中団の仲間たちからもらった、このフレキシブルで情熱にあふれた気持ちを糧に、未来へ邁進していきます。みんな、ありがとう！ 再会！

◆ 大学生

訪中前、私が抱いていた中国のイメージは、日本のメディアや SNS から得た情報に大きく影響されていました。それらの情報は、時として一面的であり、知らず知らずのうちに私のなかに中国に対するネガティブな感情や先入観を植え付けていたように思います。しかし、実際に中国を訪れ、現地の人々の文化や生活に触れる中で、その先入観は大きく揺らぎました。私がこれまで「日本人」というフィルターを通して中国を評価し、理解したつもりになっていたことに気づかされました。交流した学生や市民の方々は皆温かく、私たちを一個人として歓迎してくれました。

今回の経験を通じ、今後の日中関係をより良いものにしていくためには、私たち一人ひとりの意識が重要だと強く感じました。「日本人」「中国人」といった民族意識や国民性という大きな枠組みで相手を見るのではなく、目の前にいる一人の「個人」として向き合い、理解しようと努めること。その積み重ねこそが、真の友好関係の礎となると感じました。

◆ 大学生

今回の訪中を通じて、私が最も強く感じたのは、中国における国家としての自己イメージの発信力と、それを支える若者の強い愛国心でした。視察先では、建造物や観光施設の規模、都市インフラの整備状況から、中国の急速な経済発展と国家戦略の成果を目の当たりにしました。同時に、それらがいかに計画的に「国の魅力」として演出されているかにも注目させられ、プロモーションにおける戦略性の高さを実感しました。

また、現地の学生との対話を通じて、SNS 等で得ていた中国像とは異なる、より多面的で現実的な姿を知ることができました。彼らは自国に対する強い誇りを持ちつつ、私たち日本の若者にも真摯に関心を寄せており、相互理解の可能性を感じさせてくれました。

本交流を通じて得た最大の収穫は、「先入観の打破」と「実際に現地を見ることの意義」です。今後は一層、国際社会を見る目を養い、多角的な視点から物事を捉える姿勢を大切にしていきたいと考えています。

4. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 ♡ 40 Q △ 他 5月24日から30日にかけて、JENESYS2025 日本大学生訪中国に参加しました。上海、江西省、北京の3都市を訪問し、中国の歴史や文化を学び、現地の大学生との交流を行いました。中国に渡航する前と渡航した後で、中国に対するイメージが大きく変わり、今回訪問した3都市だけでなく、たくさんの都市を訪れ、中国に対する理解を深めていきたいと思います。 そして、今回の訪中国に参加した多くの大学生の方とお話することができ、自分の知らないことを教えてくださいました。により、新しい考え方を持つことができました。訪中国で出会った9班のみんなをはじめ、1つ1つの出会い、出来事が自分の人生にとっての最大の宝物であり、忘れることのない一生の思い出です。 人生で1番楽しい7日間を過ごすことができたのも、訪中国のメンバーのみなさんと中国に行けたからだと思います。これからも日々努力をして、成長した姿を見せれるように頑張ります！ 7日間本当にありがとうございました。	JENESYS2025年度 日本大学生訪中国に参加してきました 【終了】「JENESYS」2025年度日本大学生訪中国 参加大学生 募集 - 公益財団法人 日中友好会館 日中友好会館は、外務省が推進する「JENESYS2024」の一環として日本大学生訪中国を中国に派遣します。北京で開催 www.jkc.or.jp はじめに この度、私は「JENESYS2025年度 日本大学生訪中国」の一員として、5月24日から5月30日までの7日間、中国を訪問する貴重な機会を得ました。上海の近代的な都市景観から始まり、南昌では歴史と革新が見え、そして北京では国の歴史と文化の中心を体験しました。 歴史の壮大さとテクノロジーの躍動 江西省南昌市では、漢代の詩人・王勃の「滕王閣序」で知られる名勝「滕王閣」を訪れました。長江の支流である赣江のほとりそびえ立つその姿からは、幾多の王朝の興亡を見つめてきた悠久の歴史の重みと壮大さを感じ、深く感動しました。 その一方で、「南昌VR产业基地」では、中国が国を挙げて推進する最新のテクノロジーの現場を体験しました。VR技術が利用された様々なアトラクションを体験することで、中国の技術革新のスピードと力強さを目の当たりにし、圧倒されました。 最後の訪問地である北京では、明・清代の皇帝であった「故宫博物院」を見学しました。広大な敷地に立ち並ぶ壮麗な建築群と、そこに収められた数多の文物は、中国の長い歴史と文化のスケールの大きさを雄弁に物語っており、その奥深さに改めて感銘を受けました。 「日本人」というフィルターを外して見えたもの 訪中前、私が抱いていた中国のイメージは、日本のメディアやSNSから得た情報に大きく影響されていました。それらの情報は、時として一面的であり、知らず知らずのうちに私に中国に対するネガティブな感情や先入観を植え付けていたように思います。 しかし、実際に中国を訪れ、現地の人々の文化や生活に触れる中で、その先入観は大きく揺らぎました。私がこれまで「日本人」というフィルターを通して中国を評価し、理解したつもりになっていたことに気づかされました。交流した学生や市民の方々は皆温かく、私たちを一人一人として歓迎してくれました。 本当の友好関係を築くために 今回の経験を通じ、今後の日中関係をより良いものにしていくためには、私たち一人ひとりの意識が重要だと強く感じました。「日本人」「中国人」といった民族意識や国籍という大きな枠組みで相手を見るのではなく、目の前にいる一人の「個人」として向き合い、理解しようと努めること。その積み重ねこそが、真の友好関係の礎となると感じました。 おわりに 今回の派遣は、私にとって中国という国、そして日中関係を自分自身の視点で捉え直す、またとない機会となりました。この貴重な経験を今後の学びに活かし、互いの国レベルでの相互理解の促進に貢献していきたいと考えています。
2025 年 6 月 3 日 (Instagram) 中国に渡航する前と後で中国に対するイメージが大きく変わった。他の都市も訪れて中国への理解を深めたい。	2025 年 6 月 13 日 (note) 今回の経験を通じ、今後の日中関係をより良いものにしていくためには、私たち一人ひとりの意識が重要だと強く感じた。中国という国、日中関係を自分自身の視点で捉え直す、またとない機会となった。

新华社北京5月30日电 题：近300名日本青年应邀访华：“中日青年可以创造更好的未来”

新华社记者朱超、陆君钰

极具盛唐风韵的舞蹈《唐印》，圆融似水、刚劲如雷的武术表演《太极神韵》，活力动感的青春热舞，融合汉字力量和日本特色的书道表演……

5月29日，近600名中日青年齐聚中国人民大学互动交流、展示才艺。贯通古今、美美与共的精彩演出，将中日青年友好交流大会的气氛推向高潮。

应中国人民对外友好协会邀请，来自日本各地的近300名青年于5月24日至30日访华，分别赴北京、上海、山西、江西、广东、云南等地参访。为期七天的中国之旅给他们带来怎样的触动？

——看见真实而立体的中国

在江西景德镇感受艺术与乡村振兴碰撞出的火花；在上海体会现代化发展和历史文化传承相得益彰的魅力……日本青年们充分感知着真实而立体的中国。

“这里通过瓷器与世界建立联系。”在景德镇体验绘制陶瓷后，津田敦大学三年级学生小谷菜奈子感叹，走进曾在书本上读到的地方，更能体会千年瓷都的历史辉煌、现代创新和未来发展走向。



5月27日，日本青年访华团在景德镇体验釉上彩绘制。（中国人民对外友好协会供图）

在景德镇章溪村与村民交流，感受瓷器、茶道艺术与乡村振兴融合，日本筑波大学学生上原拓也说，中国与与时俱进的科技发展及文化的传承发展让他印象深刻。

“对热情好客的中国人民和博大精深中华文化的鲜活感受，如果不亲身前来，是不会体会如此真切的。”他说。

此次日本青年访华团由日本三个友好团体组派，日中友好协会是其中之一。“学生把自己对访问中国的想法



2025 年 5 月 29 日（新華社通信）

「300 名ほどの日本青年を中国に招聘『中日青年はより良い未来を創造できる』」本訪中国の上海と江西省での活動と中日青年交流大会の様子などが紹介されました。

2025 年 5 月 30 日（CCTV・中央電視網）

「心をつないで、共に平和へ 中日青年交流大会が北京で開催」中日青年交流大会の概要と共に、金杉憲治駐中国日本国大使の挨拶や訪中団の学生代表のスピーチ、中国の学生代表のスピーチが紹介されました。

日中の大学生が交流会 500人に「架け橋」期待—北京 時事通信 外信部 2025年05月29日19時40分 配信  【北京時事】中国・北京で29日、日中の大学生約500人による交流イベントが開かれた。日本からは、日中友好協会、日中文化交流協会、日中友好会館がそれぞれ派遣した大学生の訪中団、計約300人が参加した。 バンダ飼育に謝意 「会いに中国へ来て」—中国外務省 市内の大学で開かれたイベントには、金杉憲治駐中国大使らが出席。中国側の受け入れ団体である中国人民対外友好協会の楊万明会長が、「両国民の心が通じ合う架け橋になってほしい」とあいさつした。 日中の学生は、それぞれ歌やダンス、伝統芸能などを披露し交流を深めた。参加した東北大3年の大江力さん（21）は、「初めて中国に来たが、発展に驚いた。同年代の学生と直接交流し、（考え方は）自分たちとあまり変わらない」と知ることができた」と話した。	日中の学生500人が北京で交流 「友好や協力関係の礎に」 北京＝井上亮 2025年5月30日 8時00分  中国・北京の中国人民大学で29日、日本の大学生約300人と中国の大学生約200人が参加する交流イベントがあった。米国が中国留学生へのビザ取り消しを表明するなど米中対立が目立つなか、日中双方の学生は「心をつないで、共に平和へ」とのテーマのもと、歌や伝統舞踊などを披露。相互理解を深めた。 押し寄せる「留日」の波 中国での受験競争を避け、日本留学が増える 日中友好協会、日中文化交流協会、日中友好会館の3団体が出場。日本各地の大学から訪中団を募集。24日から中国を訪れていた。この日のイベントでは出席した金杉憲治駐中国大使らも見守るなか、中国側は京劇や武術の演舞を披露。日本側は合唱や書道のパフォーマンスを発表した。 日本側の学生代表の一人としてスピーチした上智大学の平野恵理さんは、今回の訪中を通じ「限られた情報源だけで相手のことを判断するのはもったいないと感じた」という。「交流の積み重ねが様々な分野で日中関係の友好や協力関係の礎になる」と話した。 「中国、肌で感じて」 日中文化交流協会訪中団の加藤千洋 団長（ジャーナリスト）は「今日この場に集った日中両国の若い世代のみなさんがこれからの主人公。日中関係をさらに前進させ、豊かなものにする仕事にぜひ参加してほしい」とあいさつした。 イベントで他の学生らとダンスを披露した東北大3年の大江力さん（21）は、理学部で物理を学んでいて人工知能（AI）など中国の最新のテクノロジーに関心があり、訪中団に応募した。「初めて訪問したが発展ぶりに驚いた。上海は夜でもきらびやかで未来の都市のようだった」と話した。日本に帰ったら友人らに「現場に行って同年代と話して中国を肌で感じてほしい」と伝えたいという。
2025年5月29日（時事通信） 「日中の大学生が交流会 500人に『架け橋』期待—北京」北京で29日、日中の大学生約500人による交流イベントが開かれた。日本からは、日中友好協会、日中文化交流協会、日中友好会館がそれぞれ派遣した大学生の訪中団、計約300人が参加したと紹介されました。	2025年5月30日（朝日新聞） 「日中の学生 500人が北京で交流『友好や協力関係の礎に』」北京の中国人民大学で、日本の大学生約300人と中国の大学生約200人が参加する交流イベントがあった。日中双方の学生は「心をつないで、共に平和へ」とのテーマのもと、歌や伝統舞踊などを披露。相互理解を深めたと紹介されました。

6. 報告会での訪中成果とアクション・プラン発表（抜粋）

	【成果の発表】 日中友好の鍵はお互いを理解しようとする姿勢にあると考えた。理解するとは単に情報を受けとることではなく、現地に赴き文化や気候、匂い等を直接感じ、人と交流すること。日中友好は双方の国民の相互理解が不可欠であり、我々若者はその交流を引っ張っていくことが役割であると考えた。 【アクション・プラン】 また中国を訪れ中国語で交流できるよう勉強に励み、日中友好の一助になるよう努める。
---	--

実施団体名：日中友好会館